事業所名　ピュアの樹　とみお　**２０２６年１１月　支援プログラム（児童発達支援）**　作成日　令和8 年 11 月 2 日

法人（事業所）理念		こどもの生命と人権を尊重し、将来において温かくいきいきとした生活が送れるようここの特性にあった療育を提供します。 地域に根ざし寄り添いながら、様々な関係機関の皆様との連携に努めます。			
支援方針		こどもが楽しい！やってみたい！という気持ちを大切にし、感覚統合理論の視点を持った遊びをほどよいチャレンジから成功体験を重ねることで、遊びを通して感覚の発達を促していきます。			
営業時間		9 時 0 分から 18 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり　なし　（特定の保育園のみ送迎支援あり）	
		支　援　内　容			
本人支援	健康・生活	◉挨拶・衣服の着脱・自分の荷物の整理・手洗い（衛生）などの基本的生活スキルの獲得支援を行う。 ◉利用児の発達段階・発達課題に合わせた支援を行う。			
	運動・感覚	◉ポニースイング、スペースリング、ボールプール、巧技台等の感覚統合遊具を使用した感覚統合遊び通して、力加減や、人との距離感、姿勢や運動・動作の基本的技能の向上を目指す。 ◉「段ボールタワー」「新聞積む積む」「牛乳パックジェンガ」「紙コップタワー」・・・物の大小、形、低い高いを意識して積み上げたり、力加減を調整して崩す、抜き取るを経験する。空間認知・目と手の協応・両手の協調性・力加減の調整・集中力など ◉「お弁当詰め詰め」「ギリギリどんぐり」「スプーンタワーに挑戦」「流しそうめんキャッチ」・・・指先でつまんだり食具などの道具を操作する力を育む。手指の巧緻性・力加減の調整・目と手の協応・道具の操作			
	認知・行動	利用児ひとりひとりの認知面における特性を理解し、様々な遊びや活動から数の概念や色、文字などについて、楽しみながら学んでいく。 感覚や認知の偏り等から生じる可能性がある不適切な行動を適切な行動へと導く支援をする。 ◉遊びのルールの理解　順番を待つ、物の一致や相違など			
	言語 コミュニケーション	自分の気持ちを伝えるために言葉や指指し、ジェスチャーなど多様なコミュニケーション手段を用いてやり取りを行うことを目指す。 利用児の行動を「〇〇がしたかったんだね」等と言語化することで、利用児自身が言語を増やせるように支援する。			
	人間関係 社会性	遊びを通して他者に興味・関心を持ち、一緒に遊ぶと楽しいと感じることができるように関わっていく。 勝ち負け等にこだわらず、協力して目標を達成し、満足感、達成感、さらなるやる気に繋げる。 感情のコントロールを目指し、他者への配慮やソーシャルスキルを学ぶ。			
家族支援		活動での様子や家庭での様子をフィードバックや連絡帳で共有し、連携を行う。 希望に応じて面談を設定し、相談援助を行う。	移行支援	利用児と保護者が安心して就学又は進級したり、状況に応じて保護者と十分な話し合いを行い、安定した日常生活が送れるよう連携を図り、支援の充実を目指す。	
地域支援・地域連携		園や関係機関、相談支援員との連携を図り、地域の中で安心して過ごせるような環境づくりを行う。	職員の質の向上	事業所内研修や外部講師を招き専門分野の研修を年に数回行っている。 毎月のプログラム会議、及び遊びの研修を行っている。	
主な行事等		季節ごとのプログラム活動（例：夏休みイベント　ハロウィンイベント　クリスマスイベント　樹ッザニアなど） 親子療育・夏休みお買い物体験・工作イベント・ＳＳＴ特別プログラム			

事業所名　ピュアの樹　とみお　2026年　１１月　支援プログラム（放課後等デイサービス）　作成日　令和8 年 11 月 2 日

法人（事業所）理念		こどもの生命と人権を尊重し、将来において温かくいきいきとした生活が送れるようここの特性にあった療育を提供します。 地域に根ざし寄り添いながら、様々な関係機関の皆様との連携に努めます。			
支援方針		こどもが楽しい！やってみたい！という気持ちを大切にし、感覚統合理論の視点を持った遊びをほどよいチャレンジから成功体験を重ねることで、遊びを通して感覚の発達を促していきます。			
営業時間		9 時 0 分から 18 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり （なし）	
		支　援　内　容			
本人支援	健康・生活	・挨拶・衣服の着脱・たたむ・自分の荷物の整理・手洗い（衛生）などの基本的生活スキルの獲得支援を行う。 ・利用児の発達段階・発達課題に合わせた支援を行う。			
	運動・感覚	◉ポニースイング、スペースリング、ボールプール、巧技台等の感覚統合遊具を使用した感覚統合遊び通して、力加減や、人との距離感、姿勢や運動・動作の基本的技能の向上を目指す。 ◉「段ボールタワー」「新聞積む積む」「牛乳パックジェンガ」「紙コップタワー」・・・物の大小、形、低い高いを意識して積み上げたり、力加減を調整して崩す、抜き取るを経験する。空間認知・目と手の協応・両手の協調性・力加減の調整・集中力・ルールを守る・他者と協力するなど ◉「お弁当詰め詰め」「ギリギリどんぐり」「スプーンタワーに挑戦」「流しそうめんキャッチ」・・・指先でつまんだり食具などの道具を操作する力を育む。手指の巧緻性・力加減の調整・目と手の協応・道具の操作・食事動作への意欲を高める			
	認知・行動	利用児ひとりひとりの認知面における特性を理解し、様々な遊びや活動から数の概念や色、文字などについて、楽しみながら学んでいく。 感覚や認知の偏り等から生じる可能性がある不適切な行動を適切な行動へと導く支援をする。 ◉遊びのルールの理解　順番を待つ、物の一致や相違など			
	言語 コミュニケーション	自分の気持ちを伝えるために言葉や指指し、ジェスチャーなど多様なコミュニケーション手段を用いてやり取りを行うことを目指す。 利用児の行動を「〇〇がしたかったんだね」等と言語化することで、利用児自身が言語を増やせるように支援する。表情から相手の気持ちを想像する。			
	人間関係 社会性	遊びを通して他者に興味・関心を持ち、一緒に遊ぶと楽しいと感じることができるように関わっていく。 勝ち負け等にこだわらず、協力して目標を達成し、満足感、達成感、さらなるやる気に繋げる。 感情のコントロールを目指し、他者への配慮やソーシャルスキルを学ぶ。			
家族支援		活動での様子や家庭での様子をフィードバックや連絡帳で共有し、連携を行う。 希望に応じて面談を設定し、相談援助を行う。	移行支援	利用児と保護者が安心して就学又は進級したり、状況に応じて保護者と十分な話し合いを行い、安定した日常生活が送れるよう連携を図り、支援の充実を目指す。	
地域支援・地域連携		園や関係機関、相談支援員との連携を図り、地域の中で安心して過ごせるような環境づくりを行う。	職員の質の向上	事業所内研修や外部講師を招き専門分野の研修を年に数回行っている。 毎月のプログラム会議、及び遊びの研修を行っている。	
主な行事等		季節ごとのプログラム活動（例：夏休みイベント　ハロウィンイベント　クリスマスイベント　樹ッザニアなど） 親子療育・夏休みお買い物体験・工作イベント・ＳＳＴ特別プログラム			